

大学等名	関西学院大学
プログラム名	AI活用人材育成プログラム・プラクティショナーコース
プログラム掲載URL	<a href="https://www.kwansei.ac.jp/academics/wide_programs/#id-r370dv5j">https://www.kwansei.ac.jp/academics/wide_programs/#id-r370dv5j</a>
現在(直近)の認定期間	令和3年度から令和7年度(令和8年3月31日)まで

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	—(全学部学科課程にて開講)
③ プログラム履修必須の有無	時期含め未定
④ 修了要件	プログラムを構成する下記6科目合計12単位を取得すること。 ・AI活用入門(2単位) ・AI活用アプリケーションデザイン入門(2単位) ・AI活用データサイエンス入門(2単位) ・AI活用アプリケーションデザイン実践演習(2単位) ・AI活用データサイエンス実践演習(2単位) ・AI活用発展演習Ⅰ(2単位)

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	6 科目
	12 単位

授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他
(1) 必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AI活用入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AI活用アプリケーションデザイン入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AI活用データサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AI活用アプリケーションデザイン実践演習	2																					
AI活用データサイエンス実践演習	2																					
AI活用発展演習	2																					
(2) 選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																						
(3) 選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																						

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「AI活用入門」(第2回) 生成AIを含む人工知能の歴史と必要性 「AI活用入門」(第3回) 1-6 ・AIの最新技術とビジネスへの様々な活用事例 「AI活用入門」(第4回) 大規模言語モデルと生成AIの関係理解 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・構造化データと非構造化データの理解 「AI活用入門」(第5～7回) 文章、画像、音声、動画認識の理解 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第1～13回) 1-3 ソーシャルメディアデータの活用 「AI活用データサイエンス入門」(第1回) ・製造、物流、販売等におけるAI活用事例 「AI活用入門」(第4回) 文章、画像、音声、動画認識に用いる技術 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第1～13回) ・データ分析の進め方(仮説検証、原因究明等)「AI活用データサイエンス入門」(第1,2回)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 データ解析(パターン発見、最適化や予測等) 「AI活用入門」(第8,9回) 1-5 ・非構造化データ処理(文章、画像、音声、動画等) 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第1～13回) データ可視化(ggplot2の活用) 「AI活用データサイエンス入門」(第3回) ・データサイエンスのサイクル(気温と電気使用量予測)「AI活用入門」(第12回) ・AIの最新活用事例(人材派遣、員外物件画像検索等)「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第14回) ・ロジカルシンキング(課題抽出と定式化等) 「AI活用データサイエンス入門」(第10回) ・AIの倫理と法令 「AI活用入門」(第3回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 3-2 ・AI技術の進展によるリスク(情報漏洩、真偽性、データの権利等)「AI活用入門」(第3回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 ・データの基本統計量(分散・標準偏差、相関等) 「AI活用入門」(第11回) 推定と検定、相関、重回帰分析等 「AI活用データサイエンス入門」(第1～9回) 統計ソフトウェア(SPSS)の活用(決定木・重回帰・クラスターリング)「AI活用データサイエンス実践演習」(第1～4回) 2-2 ・データマイニング(CRISP-DM)の理解 「AI活用入門」(第10回) データ表現(ggplot2の活用) 「AI活用データサイエンス入門」(第3回) プレゼンテーション手法 「AI活用データサイエンス実践演習」(第7回) 2-3 ・統計解析ソフトウェア(R)の活用 「AI活用入門」(第12回) 統計解析ソフトウェア(R)演習 「AI活用データサイエンス入門」(第13,14回) 統計ソフトウェア(SPSS)を駆使した課題抽出と発表 「AI活用データサイエンス実践演習」(第5,6回) ・企業等実データを活用した課題発見と解決策提案・発表 「AI活用発展演習」(第1～14回)
以下のオプションを含むもの	4-1 統計手法(確率、推定と検定の違い等) 「AI活用データサイエンス入門」(第4回) 4-2 「Dify」を活用したプログラミング演習(フローチャート、図) 「AI活用入門」(第7回) 4-3 「Dify」を活用したプログラミング演習(変数、代数、繰り返し)「AI活用入門」(第7回) 4-4 データ分析(気温データのばらつき、周期) 「AI活用入門」(第12回) データ分析(東京と沖縄の気温データ比較) 「AI活用データサイエンス入門」(第2回) 4-5 ・自然言語処理(言語抽出、かな漢字変換等) 「AI活用入門」(第5回) 形態素解析、テキストマイニング、機械翻訳等 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第2～6回) 4-6 ・画像、動画解析処理(画像分類、物体検出) 「AI活用入門」(第6回) 画像処理(パターン認識、OCR、物体認識等) 「AI活用アプリケーションデザイン入門」(第10～12回) 形態素解析や画像解析等を用いたチャットボットの開発検討 「AI活用アプリケーションデザイン実践演習」(第1～9回) 4-7 ・統計解析ソフトウェア(R)の活用 「AI活用入門」(第12回) 統計解析ソフトウェア(R)演習 「AI活用データサイエンス入門」(第13,14回) 4-8 ・気温と電気使用量の予測(データ加工、回帰分析) 「AI活用入門」(第12回) ・BtoBにおける売上予測と増収提案(決定木分析等) 「AI活用データサイエンス入門」(第13回) データの分析と課題発見(決定木・重回帰等) 「AI活用データサイエンス実践演習」(第1～4回) 4-9 ・BtoCにおける顧客セグメンテーションと売上増提案 「AI活用データサイエンス入門」(第14回) その他 企業等実データを活用した課題発見と解決策提案・発表 「AI活用発展演習」(第1～14回)

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和元年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	修了者数合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
神学部(人文科学)	135	65	30	120	7	0	17	0	11	0	4	0	2	0	2	0	2	0	45	0
文学部(人文科学)	3,345	2,111	770	3,080	160	1	484	2	447	0	379	3	94	1	65	0	19	0	1,648	7
社会学部(社会科学)	2,758	1,631	650	2,600	114	0	323	0	255	0	166	3	86	0	83	0	37	0	1,064	3
法学部(社会科学)	2,925	1,317	680	2,720	378	0	607	1	512	1	554	2	184	0	103	0	82	0	2,420	4
経済学部(社会科学)	2,961	847	680	2,720	537	0	770	1	684	2	623	4	581	3	311	0	136	0	3,642	10
商学部(社会科学)	2,832	1,370	650	2,600	490	0	619	0	646	2	567	0	382	1	130	1	66	0	2,900	4
理工学部(理学、工学)	67	6	0	0								5		8	301	0	107	0	408	13
総合政策学部(社会科学)	2,149	1,123	495	1,980	237	0	445	1	380	0	310	2	170	3	209	0	134	0	1,885	6
人間福祉学部(社会科学)	1,298	792	300	1,200	103	0	250	0	233	1	207	0	56	0	37	0	20	0	906	1
教育学部(教育学)	1,508	1,024	350	1,400	11	0	20	0	21	0	15	1	14	0	6	0	16	0	103	1
国際学部(人文科学)	1,279	856	300	1,200	90	0	203	0	181	0	161	0	51	0	58	0	18	0	762	0
理学部(理学)	777	193	180	720	78	1	115	0	89	1	93	0	28	0					403	2
工学部(工学)	1,154	129	265	1,060	200	3	241	2	210	2	194	0	100	0					945	7
生命環境学部(農学)	996	461	228	912	140	1	218	2	219	0	135	0	69	0					781	3
建築学部(工学)	600	241	132	528	101	0	144	0	118	0	96	0	57	0					516	0
																			0	0
																			0	0
																			0	0
																			0	0
																			0	0
合計	24,784	12,166	5,710	22,840	2,646	6	4,456	9	4,006	9	3,504	20	1,874	16	1,305	1	637	0	18,428	61

## 認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全6科目を修得することで、AIスキル、統計解析スキル、プロジェクトマネジメントスキル、プログラミングスキル、そして基礎ビジネススキルが身に付けられるカリキュラム編成としている。修了者のアンケートからは、「AIやデータ分析を駆使して、課題抽出と解決策提案ができた」「各自の特性を生かし、分析・提案・発表担当分けなどチーム一体となって取り組めた」など高い評価を得ている。</li> <li>・リテラシーレベルのモデルカリキュラムにおけるスキルセットを網羅している科目であり、本プログラムで最初に履修することを義務付けている「AI活用入門」の修了者アンケートにおいては、『満足度』が9割を超えている(2021年度:90%、2024年度92%)。同じくスキル向上に『役立つ度』も9割を超えている(2021年度:94%、2024年度94%)。これらにより、数理・AI・データサイエンスに関する基本的なスキルが身につけていると言える。</li> </ul>
②履修者数向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度に、対面授業として初めて開講したところ、90名の収容教室に150名を超える受講希望者が集まったため、大教室へ変更するとともに開講クラス数を増やすといった臨時対策を講じた。授業の内容に関しては、受講者各自のPCへ統計ソフトウェアのインストールと確認作業に時間がかかったことから、授業補助者を追加した。なお、抜本的な対策として、履修者数に制限がない「オンライン・オンデマンド授業」を検討し、令和3年度に3科目分を、令和4・5・6年度には各1科目ずつ合計6科目をオンデマンド化して、令和7年度現在延べ8,000人が受講している。動画による解説に加え、ワーク、ソフトウェアのインストール方法を含むデモンストレーション動画、オンラインテスト、OSに依存しないオンラインプログラミング機能、質問に対して24時間365日回答できるTAチャットボットなどを搭載して、学修効果を高める工夫をしている。</li> <li>・対面授業にて開講している科目の受講者数を増加させるため、オンデマンド科目であるAI活用アプリケーションデザイン入門・AI活用データサイエンス入門の最終動画に、アプリケーションデザイン実践演習・データサイエンス実践演習への履修を促す講師動画を令和5年度に追加した。</li> </ul>
③修了者数向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全部で7科目からなるプログラムであったことから、全科目を修了する者は多くはない。しかし、現在は毎年約8割近い入学生が履修・修了している「AI活用入門」だけでもAI活用力テラシーは習得できているため、基本的な知識・スキルを持った学生を輩出していると言える。全科目修了者も増やすべく、下記のような様々な施策を講じている。</li> <li>・生成AIの進展に伴い、重視すべきスキルに変化が生じることが予測できたため、令和6年度より「AI活用発展演習」の先修条件を変更し、履修者数を増やすべく対応している。</li> <li>・最初に履修することを義務付けている「AI活用入門」において、最後まで受講しない者が一定数(令和3年度:13%)居たため、参考資料として、当該授業のポイントや用語集をまとめた「学習用ガイドブック」を作成したり、オンラインテストにおけるヒント(設問内容が流れる動画名とその時間)を追加するなど改善を行い、令和6年度現在6%程度に減少している。</li> <li>・オンデマンド科目において、TAチャットボットを科目ごとに開発・提供していたが、科目横断的に使用される用語や復習部分についても質問・回答が可能となるよう、令和5年度に一本化した。利用度は月ごとに差はあるものの、平均200件程度活用されており、半年に一度、回答できなかった質問などバージョンアップを実施している。</li> </ul>
④関連する資格の取得推進に向けた取組	<p>本プログラムは、AI・データサイエンス関連の知識を有し、さらにそれを活用して、現実のビジネス課題・社会課題を解決する能力を有する人材輩出を目的としているため、資格取得は推奨していない。しかしながら、大学卒業後、どの程度のスキルレベルが修得できたか、がわかるように、独立行政法人情報処理推進機構が定めたITスキル標準(ITSS)との対応表を以下の通り、定めている。</p> <p>レベル1: AI活用入門、 レベル2: AI活用アプリケーションデザイン入門、AI活用データサイエンス入門、 レベル3: AI活用アプリケーションデザイン実践演習、AI活用データサイエンス実践演習、 レベル4: AI活用発展演習</p>
⑤修了者の進路、企業からの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了者のうち約4割が大学院へ進学している。残り約6割は就職しており、その企業は、IBMなどコンサルティング会社や、パナソニック・日本電気などメーカーである。特定の個別企業からの評価や活躍状況については特に把握していない。</li> <li>しかし、AI活用力カレント教育事業実施委員会を定期的に開催しており、委員である公益社団法人兵庫工業会から、本プログラムに対する産業界からの声をいただいて改善する仕組みを有している。</li> <li>・文系女子学生が第一志望の企業に内定を得た際の採用状況が、一般財団法人オープンパッセージ・ネットワークサクセスストーリー賞を2023年度に受賞している(<a href="https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000007.000050795.html">https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000007.000050795.html</a>)。AIの知識を有する人材が必要とされている現実と、そのニーズに応えられるプログラムであると言える。</li> </ul>
⑥プログラムの改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年教材内容の更新を実施している(例:令和6年度は、生成AIに関する内容とワークを大幅追加)。これを毎年継続実施することで、進展が激しいAIやIT技術をキャッチアップし、学生らに最新の情報をわかりやすく解説するとともに、TAチャットボットで活用しているwatsonのバージョンアップなど提供環境も整備する。</li> <li>また、コロナによってオンライン授業に慣れた受講生が増えており、不正利用の防止策(オンラインテスト受験時における顔認証など)を継続して実施する。</li> <li>・AI活用力カレント教育事業実施委員会にて、委員である兵庫県庁や公益社団法人兵庫工業会からフィードバックを頂き、改善している。</li> <li>・オンデマンド授業の特長を生かし、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸が取りまとめている「単位互換制度」(<a href="https://consortium-hyogo.jp/compatible/">https://consortium-hyogo.jp/compatible/</a>)へAI活用入門を令和4年度から提供しており、毎年10名程度の兵庫県内に通う大学生が、自宅等にて受講している。</li> </ul>
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度からカリキュラムを全7科目から6科目へ再編する。修了者数を増やすべく、今までに修了した学生の進路や活躍状況、体験談などを収集・まとめるなどして、受講推奨施策を充実させる。</li> <li>・オンデマンド授業の特長を生かし、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸「単位互換制度」のさらなる充実や、通信課程を有する全国の大学などとの連携を強化することで、AI活用人材の輩出をさらに増やす。</li> <li>・オンデマンド授業の特長を生かし、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択高校・DX加速化推進事業(DXハイスクール)採択校などへ、「高大連携」事業として提供することで、AIの知識を有し活用できる優秀な人材の早期輩出をめざす。</li> </ul>

大学等名	関西学院大学	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	AI活用人材育成プログラム・プラクティショナーコース	初回認定年度	令和3年度

### 取組概要

**AI活用人材**とは、AIやデータサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の**ビジネス課題・社会課題を解決する能力**を有する人材である。

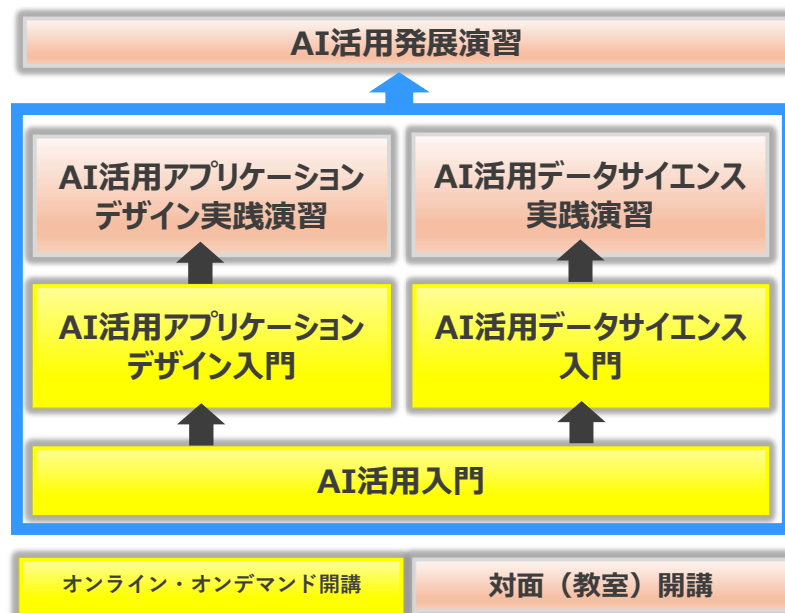
『AI活用人材育成プログラム・プラクティショナーコース』は、全6科目12単位で構成し、初学者から段階的かつ多型的に学習できるカリキュラムとしている。

最初に履修を義務付ける「AI活用入門」では、AIの歴史や技術、ツール等の基礎知識を身につける。

「AI活用データサイエンス入門」では、統計の知識・技術を学び、「AI活用データサイエンス実践演習」にて、データ分析・処理を行う。「AI活用アプリケーションデザイン入門」では、画像認識等の知識を学び、「AI活用アプリケーションデザイン実践演習」にて、チャットボットを開発する。

「AI活用発展演習」では、上述科目で培った知識・スキルを活かし、連携した企業や自治体における個別課題を分析して、AIを活用した解決策を提言する。

※矢印はすべて先修条件を示しています。



受講者 総数 <b>18,428名</b> (文系理系問わず)	
文系	15,375名 (83%)
理系	3,053名 (17%)

※収容定員による比率は、  
文系：86%、理系：14%

満足度	役立ち度
<b>92%</b>	<b>94%</b>

- ・解説動画
- ・ワーク
- ・デモンストレーション
- ・オンラインテスト
- ・TAチャットボット

**“いつでもどこでも何度でも”**  
学修効果が高い  
オンデマンド講義

課題提供など**連携企業・自治体を増やして**、  
さらなるAI活用人材の育成をめざす